事業番号	Ⅱ－１－１	計画内容	資料計画－一般図書資料	担当部門	成人

中間報告以後の実施計画

・利用の拡大を行うため、中央図書館と各地域館の規模や立地条件、利用状況に応じた特色ある資料構成と書架づくりを行います。

５年間の獲得目標

・横積み資料をなくすなど、中央図書館開架を利用しやすいよう整備します。
・貸出しが多く、ビジネス世代の利用が見込まれるため、保谷駅前図書館開架を文庫・新書・ノベルス・ビジネス関係資料を重視した資料構成に変更します。
・芝久保図書館に集密書架を増設し、開架スペースに資料保存の役割をもたせます。

29 年度目標

（１）利用者参加型の活動を通して魅力ある書架づくりをすすめ、資料の活用を促進します。

29 年度実績

（１）ひばりが丘図書館で利用者参加型講座「POP をつくろう　あなたの心を動かす一冊」（全３回連続）を実施し、成果物を利用した展示や広報を行いました。※参加者：21 名（定員 20 名/途中欠１名）
①講座成果物（POP・書評）を、７月～翌年３月まで全館を巡回展示
　展示書架に、自由に感想を投稿する「いいね！」カードとボックスを配置
②講座内容報告とあわせて図書館ホームページ・図書館だより・図書館情報紙ちらっとに掲載
③POP・書評をまとめた冊子を作成し、参加者配布と地域・行政資料室で閲覧に供しました
（２）28 年度に引き続き、中央図書館青年期コーナー隣接書架で、４月から 12 月まで武蔵野大学生のおすすめ本展示を行いました。

自己評価・取組み改善点

（１）アンケート回収率：95％ ・参加者の半数をこえる 52.6％が 20 代～40 代と従来の講演に比べ若い世代の参加が目立ちました。 ・同様の講座があればまた参加したいとの回答が約 90％を占め、参加型企画への期待を確認できました。 自由回答欄では「知的刺激があった」「すでに読んだ本でも改めて向き合うと新たな発見がある」など、評価の意見がありました。 ①展示期間の蔵書回転率は 9.6 回／９ヶ月（展示前の回転率は 3.5 回／９ヶ月）と展示前より増加しました。「それぞれに味があってうーんと感心してしまった。」「全部おもしろいしかけがあってよかったです　小学五年生より」といった感想がありました。（「いいね！」カードより抜粋） ②ホームページの講座内容報告に対するアクセス数はのべ 1,207 アクセスでした。 （２）展示書架の蔵書回転率は 7.7 回／９ヶ月と、１ヶ月平均は前年度（28 年２月から３月は 3.3 回／２ヶ月）より回転数が減少、平成 30 年度は「おすすめ」とあわせて展示テーマについても武蔵野大学生の意見を募集し取組む予定です。	A

図書館協議会委員による二次評価

利用者参加型の活動として、POP 作りの講座開催とその成果の展示、および市内大学生のおすすめ本展示等を実施したことはおおいに評価できます。引き続き若い世代を対象とした企画の増加を期待します。	A

事業番号	Ⅱ-1-4	計画内容	資料計画－レファレンス資料	担当部門	レファレンス

中間報告以後の実施計画

・レファレンス資料の蓄積と、ホームページ等で新刊情報をご案内します。
・書庫資料の更新と開架資料の更新を実施します。

５年間の獲得目標

・開架室の資料を有効に活用するため、各図書館資料の更新（資料の除架・除籍、移動、購入等）を順次実施します。

29 年度目標

（1）スペースの限りをふまえ、物理的空間に頼らない形でも資料と利用者の出会いのあり方を検討します。
（2）資料の刊行状況を調査し、同様の分野の資料提供に気を配るとともに、貴重な資料の保存に留意します。
（3）昨年度に引き続き中央書庫の整理・保存と地域館の開架資料の活性化を図ります。

29 年度実績

（1）ホームページの新刊案内の方法を見直しました。新刊案内の数は年間 24 タイトルから 800 強タイトルに増加し、情報提供を強化できました。また、都立レファレンス担当者会議にてパスファインダー都内リンク集事業を提案、参加しました。
（2）レファレンス記録などの実績に基づき、植物図鑑や国語辞典などは、地域館にも研究書を配置し、地域館でのレファレンスニーズに対応しました。新刊購入以外に既刊 144 冊を再配置しました。
（3）近年廃刊が相次ぐレファレンス紙資料の刊行状況を確認し、代替資料の確保や Web での情報入手が可能かの確認および資料の保存を進めました。

自己評価・取組み改善点

（1）新刊案内の方法はこれまで担当が毎月任意の資料２点を選んで紹介していたものをやめ、毎月の全てのレファレンス新着情報を表示するようにしました。パスファインダーなどは自市での作成にこだわらず、すでにある情報の活用やその情報源を提示することで情報提供の役割を果たしていきたいと考えています。 （2）白書・年鑑類の中央集中保存を進め、スペースの少ない地域館での資料の多様性・新規性を維持できるよう整備を進めました。	A

図書館協議会委員による二次評価

新刊案内の件数の大幅増加、レファレンスニーズに沿った参考図書配置の見直し等、利用者と図書館資料の出会いを演出する工夫が適切になされていると評価します。レファレンス紙資料の保存については引き続き慎重に進めていただきたいと思います。	A

事業番号	Ⅱ－１－５－１	計画内容	資料計画－児童・青少年図書資料	担当部門	児童・青少年

中間報告以後の実施計画

・外国語資料の原書の購入・買い替えを行い、蔵書の充実を図ります。特に、日本語資料の多言語化資料の購入や欧米以外の言語資料の購入をこころがけます。

５年間の獲得目標

・外国語資料を５年間で 300 冊購入します。
・所蔵する外国語資料のうち、欧米言語以外の資料が占める割合を 10%とします。

29 年度目標

（１）ひばりが丘図書館にて、欧米言語以外の児童書を 30 冊購入します。

29 年度実績

（１）日本の絵本が翻訳された作品を中心に、韓国語版 16 冊、中国語版 22 冊を購入しました。
児童書における外国語資料の所蔵冊数は 2,283 冊となり、欧米言語以外の資料は 236 冊で目標の 10%を達成しました。
外国語絵本回転率　1.25 回（1,279 冊／1,605 回）平成 28 年度　1.30 回（1,185 冊／1,543 回）
新規購入・昨年度購入した資料の回転率
中央：0.4 回（約１年)48 冊　中央・ひ：0.2 回（２ヶ月弱）86 冊

自己評価・取組み改善点

ハンディキャップサービスとの共催行事「中国語･韓国語できく　いろんな　ことばでたのしむ　おはなし会」で、購入した資料を活用しました。(詳細はハンディキャップサービスの項目参照）欧米言語以外の資料が図書館で所蔵していることを、その言語を母国語とする方への PR を検討します。	A

図書館協議会委員による二次評価

外国語絵本の蔵書数が目標値を超えた点はとても評価できます。今後は、英語、中国語、韓国語以外の外国語についても収集範囲を広げることと、広報を工夫して、蔵書回転率（貸出冊数÷蔵書冊数）をもう少し上げる努力を望みます。	A

事業番号	Ⅱ-１-５-２	計画内容	資料計画－児童・青少年図書資料	担当部門	児童・青少年

中間報告以後の実施計画

・ヤングアダルト資料についてノンフィクションの充実を図ります。平成 25 年度ではヤングアダルト購入冊数の 19%であったノンフィクション資料を、前年度比２%程度増を目安として購入をすすめます。
・平成 26 年度から成人サービス担当者との共同の選書を月に１回程度設けることによって、選書の幅を広げ、ノンフィクション資料の充実を目指します。

５年間の獲得目標

・ノンフィクション資料の充実を図るため、５年間でノンフィクション資料の購入目標を、ヤングアダルト購入冊数全体の 30%とし、それを維持します。

29 年度目標

（１）ひばりが丘図書館のヤングアダルトコーナーをリニューアルします。
（２）ノンフィクション資料の購入目標を、ヤングアダルト購入冊数全体の 30%とし、それを維持します。
（３）ヤングアダルトの年代に役立つ書評講座を開催します。

29 年度実績

（１）読書や勉強に利用しやすいよう専用閲覧席を設置し、中高生に身近な「進路」「部活」「勉強法」のテーマ展示、中学生のおすすめ本５冊の POP 展示を行いました。
（２）ノンフィクション資料の購入は 43.5%、目標値を上回りました。
（３）大学教授を講師に迎え、書評講座を実施しました。
演題：「YA 書評講座～本を読んで感じた『！』や『？』を文章にしてみよう！書き方、おしえます～」（２回講座）
参加者　第１回４名・第２回３名
講師　宮川健郎氏（武蔵野大学文学部教授）
参加者の書評は、本とともに全館で巡回展示し、HP にも掲載しました。

自己評価・取組み改善点

終了後のアンケートでは、「とてもよかった」が 100%と満足度は高く、「人数が少なかったということもあり、１人１人に詳しく対応してくれてとても良かった」「配布レジュメに書いてあったポイントも、今まで貯めていた悩みを解決してくれるものばかりで、とても役立った」「先生のお話がわかりやすくて、文章が書くのが苦手な私でも、とても書きやすかった」といった感想もあり、参加者全員に満足いただきました。	A

図書館協議会委員による二次評価

YA 資料の購入面で、小説以外のノンフィクション資料の充実が図られている点は特に評価できます。また、POP 展示や書評講座の開催などの取り組みもおおいに評価されますが、今後は学校図書館との連携も含め、この世代に向けての広報を充実することを望みます。	A

事業番号	Ⅱ－１－６	計画内容	資料計画－地域・行政資料	担当部門	地域・行政資料

中間報告以後の実施計画

・地域・行政資料室は収集方針に沿って永久保存資料の原紙保存とデジタルデータ化を進めるため、積極的な公開と情報提供に努めます。

５年間の獲得目標

・第２次総合計画に位置づけられた「地域・行政資料の電子化の推進」事業を実施します。
・図書館ホームページ「デジタル西東京市」の充実と「西東京市関係新聞記事索引」の公開を継続します。

29 年度目標

（1）原本を移管された市史編纂資料の電子化を進めます。

29 年度実績

（1）市史編纂資料として原本が移管されている文書の電子化を進めました。
電子化資料数 1,085 点、電子化画像数 21,140 点
・対象とした文書は、移管当初から既に経年の劣化が見られ、判読あるいは開帳が困難な古文書とし、電子化作業に耐え得るかの観点で、劣化状態の調査を含め、調査結果に基づいて、開帳できないものは全体の現状を撮影することで電子化しました。
・1984 年３月に田無市立中央図書館が編集・発行した『田無神社（1）』を図書館ホームページ「デジタル西東京市」コーナーで公開しました。
・図書館ホームページ「国史跡下野谷遺跡関連資料等の紹介」コーナーに西東京市発行資料を追加掲載しました。

自己評価・取組み改善点

電子化により、電子画像を閲覧提供することが可能となり、原本は閲覧不可として保存箱に収納したことにより保存環境を向上させることができました。 電子化とホームページでの写真や情報の公開により、使用申請を受け、所蔵写真 115 点、市史編纂資料 19 点について、デジタル画像で提供しました。	A

図書館協議会委員による二次評価

市史編纂史料の電子化は、きわめて意義のあるもので、引き続き電子化を進めていただくことを望みます。あわせて西東京市関係資料の電子化事業についても、拡大継続されるよう望みます。	A

事業番号	Ⅱ－１－７－１	計画内容	資料計画－音声資料・点字資料等	担当部門	ハンディキャップ

中間報告以後の実施計画

・デイジー図書の作製を進めます。目標 800 タイトルのうち、前期計画期間の５年間で 450 タイトルのデイジー図書を作製しました。今後５年間に 350 タイトルを作製します。

５年間の獲得目標

・今後５年間で 350 タイトルのデイジー図書を作製します。

29 年度目標

（1）利用者からのリクエストに応じてのデイジー図書（プライベート含）を作製します。

29 年度実績

（1）利用者からリクエストされた図書のうち、68 タイトルを作製し提供しました。平成 26 年度から累計 239 タイトルになりました。

自己評価・取組み改善点

作製したデイジー図書は 54 タイトル。利用者及び相互貸借による貸出は合計 95 回。 全戸配布した市刊行物（暮らしの便利帳・健康事業ガイド・ゴミ分別辞典）及びプライベートで作製したデイジー図書は計 14 タイトル。合計 68 タイトルになります。 課題としては、利用者からの需要が増加したとき、音訳者の確保が難しく、また、音訳レベルを維持していくことも含め、後継者の育成の強化を図ります。	A

図書館協議会委員による二次評価

西東京市図書館のデイジー図書作製は、全国的にも先行していて、市民としてその取り組みを誇りに思います。今後とも音訳者養成活動を続けるとともに、成果についての広報も望みます。	A

事業番号	Ⅱ－１－７－２	計画内容	資料計画－音声資料・点字資料等	担当部門	ハンディキャップ

中間報告以後の実施計画

・国立国会図書館視覚障害者等用データの収集および送信サービスに登録し、作製したデイジー図書をアップロードして、全国の図書館や点字図書館に資料の提供を行います。

５年間の獲得目標

・利用者への資料の貸出しを含め、情報提供を拡大するため、デイジー図書 800 タイトルのアップロードを目指します。

29 年度目標

（1）デイジー図書 200 タイトルのアップロードを目指します。

29 年度実績

（1）29 年度中、271 タイトルのデイジー図書を国会図書館へデータを提出し目標を達成しました。

自己評価・取組み改善点

国会図書館にアップロードされた 300 タイトルの利用状況（ダウンロード回数）は合計 13,569 回ありました。平均利用回数は 45 回、最多利用回数の資料は 310 回でした。	A

図書館協議会委員による二次評価

デイジー図書のアップロード件数について、大幅に目標値を超えたことをおおいに評価します。	A

事業番号	Ⅱ-２-１-１（１）	計画内容	サービス計画ー成人	担当部門	成人

中間報告以後の実施計画

・市民の課題解決を支援するサービスに取り組みます。

５年間の獲得目標

・健康医療情報、法律情報など、課題解決支援に関わる資料について新規購入や買い替えを進め、新しい情報の提供に努めます。

29 年度目標

（１）中央図書館に法律情報コーナーを設置します。

29 年度実績

（１）分類によって法律書が分散する問題に対応するため、トラブル種別に整備した実用書に加え、六法・判例等を重点的に収集し「暮らしに役立つ法律」コーナーを中央図書館に設置しました。
・法律関係雑誌『ジュリスト』『判例タイムズ』を配架しました。
・法テラスの案内や支援に関する相談内容別の配布用リーフレットを用意しました。
・コーナーについての広報を図書館だより・多摩六都図書館ニュース・図書館情報紙ちらっとに掲載し、周知を図りました。

自己評価・取組み改善点

実用書蔵書回転数 0.5 回（155 冊） 六法・判例等回転数 0.35 回（30 冊） コーナー全体 0.85 回／２ヶ月（185 冊） 相談内容別リーフレットは、相続、成年後見、離婚、多重債務の順に需要があり、今後の講演会等のテーマに反映させる予定です。	A

図書館協議会委員による二次評価

利用者の課題解決への図書館による支援活動の一環として、良い取り組みだと思います。利用状況等をみながらコーナーの充実発展を望みます。	A

事業番号	Ⅱ-２-１-１（２）	計画内容	サービス計画ー成人	担当部門	成人

中間報告以後の実施計画

成人サービスを年齢別、利用者層別に分け、対象者を絞り込んだ蔵書構成を行い、利用の拡大をめざします。

５年間の獲得目標

・他部門と協力しながら、ビジネスパーソン支援サービス、シニア支援サービス、青年期サービス、多文化共生サービスを実施します。

29 年度目標

（１）中央図書館に英語多読コーナーを設置します。

29 年度実績

（１）継続的にリクエストがみられた洋書・英語絵本等を収集し、シリーズ別レベル別に整備した英語多読コーナーを中央図書館に設置しました。
・現在、10 シリーズと雑誌１誌を配架しました。
・設置に先駆け、ハンディキャップサービスと協力し、ひばりが丘図書館で２月に関連講座「英語多読はじめのいっぽ～絵本から洋書へ～」を行いました。
※参加者：28 名（定員 30 名/当日欠４名）うち親子参加５組

自己評価・取組み改善点

設置直後から各館より更に複本や未所蔵シリーズ購入の要望（カウンター、投書、電話等）が複数みられ、英語学習用資料に対する需要の高さを確認しました。 ・コーナー設置当初の冊数は 551 冊（購入決定数は 1,707 冊）、その後 800 冊まで増加していますが、利用者からの要望の大きさ等を考慮し、今後ひばりが丘図書館にも同様の書架を設置する予定です。 ・アンケート回収率：75％ 自由記入欄では「また２回、３回とやってほしい。中央図書館でもやってほしい。」「ぜひこの講座の第２回、第３回…と開催してほしいです。」「西東京市でもサークルがほしい。」（抜粋）等、英語学習資料や機会の需要の高さがうかがえました。 どのような本を英語で読んでみたいかという設問に対し、「絵本」「海外の小説」がともに同票１位であったため、今後の洋書の蔵書構成に反映する予定です。	A

図書館協議会委員による二次評価

英語多読コーナーの設置は、多くの市民に好評な企画として迎えられており、おおいに評価されますが、今後の継続発展にあたっては図書館側としてのサービス方針の整理も課題として残されております。	A

事業番号	Ⅱ-２-２	計画内容	サービス計画ー児童・青少年	担当部門	児童・青少年

中間報告以後の実施計画

・おはなし会の充実を図ります。
・行事の PR について充実を図ります。

５年間の獲得目標

・全館での１・２歳児向けおはなし会を実施します。
・各館のおはなし会の現状を把握・精査して、内容の標準化を図ることにより、参加する子どもたちが、どこの図書館でも一定基準を満たした同等のサービスを受けられるようにします。

29 年度目標

（1）行事の PR についての充実に努めます。
（2）小学校等児童向けイベントで活用できるよう、大型絵本を 30 冊購入します。

29 年度実績

（1）おはなし会開催日に入り口におはなし会の案内を掲示しました。また、おはなし会で読んだ絵本を館内に展示し、内容をアピールしました。
（2）大型絵本を 42 冊購入しました。イベント等で活用しています。

自己評価・取組み改善点

おはなし会の絵本は展示するとすぐに貸出され、利用者によく活用されています。 大型絵本は新規のものに加え、特に利用の多い行事絵本の複本化をすすめ、地域で子どもの読書に関わる団体や、読み聞かせに関わる保護者への支援をすすめました。	A

図書館協議会委員による二次評価

「おはなし会」の PR、大型絵本の購入について評価します。今後は、小学生が参加しやすい「おはなし会」の設定も検討されることを望みます。	A

事業番号	Ⅱ-２-２	計画内容	サービス計画ー児童・青少年	担当部門	児童・青少年

中間報告以後の実施計画

・絵本と子育て事業を継続して実施します。
・絵本と子育て事業のフォロー事業を３歳児健診時に実施します。

５年間の獲得目標

・絵本と子育て事業を継続して実施します。
・絵本と子育て事業のフォロー事業を３歳児健診時に実施します。

29 年度目標

（1）絵本と子育て事業のフォロー事業を３歳児健診時に実施し、継続して子どもの読書活動の支援をします。

29 年度実績

（1） ３歳児健康診査時にフォロー事業を８月から開始しました。実施回数 20 回、参加者数 84 組。
（参加率 10.9%）

自己評価・取組み改善点

３階の健診会場と６階の事業実施会場が離れているため、事業参加率に繋がらないという難しさはありますが、実際に事業に参加した方の様子を見ると、読み聞かせを何冊も楽しみ、ゆっくりと過ごし、おはなしの時間を満喫されている様子の親子が多いです。	A

図書館協議会委員による二次評価

読書習慣や図書館利用の定着のために、３歳児検診時のフォローアップ事業を試み、20 回実施されたことをおおいに評価します。今後、３歳児検診時に行うか、別の機会を探すか、試行錯誤が求められるところですが、いずれの形にせよフォローアップ事業が必要であり、今回の経験を活かし事業の継続を望みます。	A

事業番号	Ⅱ－２－３－１（５）	計画内容	サービス計画－レファレンス	担当部門	レファレンス

中間報告以後の実施計画

・利用者へレファレンスサービスを PR し、利用者に有用な情報を届けるため、有料データベースを活用したレファレンス事例を公開し、その手法について、市民講座を開催します。
・情報弱者の解消に向け、利用者に役立つ方策について検討し、具体化します。

５年間の獲得目標

・利用者対象の有料データベースの活用方法、国立国会図書館アーカイブ資料データベース閲覧講習会、利用者用検索機（OPAC）の利用方法講習会等の開催について、段階的に拡大し、５年間で 100 回以上の実施を目標とします。

29 年度目標

（１）利用者向けにデータベースの講演会およびショートセミナーを開催し、利用者の調査研究を支援します。
（２）レファレンスサービスの PR のため、ポスターの作成やレファレンス事例の紹介をおこないます。

29 年度実績

（１）国立国会図書館デジタルコレクションの講演会を開催しました（７月）。
演題：「国立国会図書館デジタルコレクションの世界～身近になる貴重書・絶版書～」
参加者：28 人
15 分程度で申し込み不要の気軽に参加できるショートセミナーを２回実施しました（10・12 月）。
演題：朝日新聞データベース「聞蔵Ⅱビジュアル」ショートセミナー
参加者：１回目０人、２回目５人
（２）レファレンスサービスをわかりやすく PR するポスターを作成しました。
全国月刊誌にレファレンス事例の寄稿をおこない、西東京市および西東京市図書館のレファレンスサービスを対外的に PR しました。掲載面は館内に掲示し、利用者への PR にも転用しました。

自己評価・取組み改善点

（１）アンケートでは、約 85％が「満足」「おおむね満足」と回答（残りの 15％は無回答）。最後の質疑応答では、今後のデータベースの展開や西東京市と国会図書館との連携、プリントアウト等、多岐にわたる積極的な質問が相次ぎ、時間を超過して盛り上がりました。 平日に開催した１度目の反省をふまえ、２回目は休日に開催しました。幅広い年齢層の人の参加（定員満）があり、特に小学生の利用者の積極的な操作には、この層へのデータベース PR の可能性を感じられました。当日参加型でなければ呼び込めなかった利用者層のため、ショートセミナーにはこれまでの講習会とは違う効果が期待できるように感じます。 （２）ポスターの実際の掲示は平成 30 年度から実施予定です。月刊誌の寄稿は、館内利用者からの反応はありませんが、インターン生からは「実際のレファレンスがわかって面白い」との反応がありました。	A

図書館協議会委員による二次評価

新聞データベースをはじめ、データベースは市民にとってたいへん役に立つものですが、その存在や使い方がわからなければ、利用することができませんので、広報と使い方の講習会は必須です。広報と講習会の継続的な実施を望みます。	A

事業番号	Ⅱ－２－３－３（３）	計画内容	サービス計画－レファレンス	担当部門	レファレンス

中間報告以後の実施計画

・職員・嘱託員の研修機会の確保と館内研修の拡大を進めます。
・外部研修で得た知識や技能について、館内研修での還元を行います。

５年間の獲得目標

・職員・嘱託員の研修を充実させるため、25 年度（200 時間）比５％ずつの増加を目標とします。

29 年度目標

（１）新任図書館員むけのレファレンス研修を実施し、基礎的なレファレンス知識の獲得を目指します。
（２）レファレンス記録の方法を整理・共有することで、記録の集積・活用を目指します。
（３）レファレンスだよりを発行し、全館的なレファレンスへの関心・スキル向上をねらいます。
（４）外部研修に積極的に参加し、得た知見の還元をこころがけます。

29 年度実績

（１）レファレンス研修を行いました。
内容：レファレンスインタビューとレファレンス資料に関する基礎的な講義と演習
対象：新任図書館員５名
（２）レファレンス記録の方法の整理・共有を行いました。
レファレンス記録数：302 件
（内、国立国会図書館レファレンス協同データベースへの登録数：182、登録したレファレンス事例から１つが、全国の中から PickUp 事例として選ばれました）
（３）レファレンスだよりを発行、レファレンス事例と知識の共有を行いました。
対象：西東京市全館図書館員
発行回数：計３回
（４）Web 情報の活用方法等を中心に、レファレンス担当が外部研修に参加しました。
詳細：「YA サービスにおけるレファレンス協同データベースの活用」「地域資料のレファレンス協同データベース活用」「国立国会図書館人文社会科学データベースの活用方法」

自己評価・取組み改善点

（１）その後のフォローアップ課題では９割以上の正答率となり、基礎的な知識の定着という点で効果があったと考えられます。「実際にあったレファレンスで難しかったものをみんなで考えたい」「事前に課題を解いて自分の回答をみんなにチェックしてほしい」といった要望が寄せられました。 （２）記録を取る習慣をつけるという目標はある程度達成されたと考えますが、人によるばらつきもあり、今後の継続が課題です。 （３）実際に書かれたレファレンス記録を共有し、どのような調査手順・資料があるかコメントすることで、上記（１）で挙がっていた要望にも応えるようにしました。「普段自分の館では受けない種類のレファレンスについて知れて興味深い」「こんなアプローチがあるのかと思った」などの感想が寄せられました。 （４）レファレンス記録も含めて、オンライン上のデータベースの理解・整理およびレファレンス活用を進めていきたいと思います。	A

図書館協議会委員による二次評価

新任図書館員向けレファレンス研修の実施、レファレンス協同データベースへの積極的な事例報告等、図書館員のレファレンス技能の向上に努めていることを評価します。一方で、図書館には何でも尋ねることができるということを利用者に知ってもらうための「レファレンス自体の普及」にも努めるよう望みます。	A

事業番号	Ⅱ－２－４－１（５）	計画内容	サービス計画－地域・行政資料	担当部門	地域・行政資料

中間報告以後の実施計画

・西東京市に関する情報の積極的な収集のため、市民や市内活動団体、庁内各部署、特に下野谷遺跡等文化財関連事業との連携を図るよう努めます。

５年間の獲得目標

・相談、支援、調査、事業開催に努めます。

29 年度目標

（１）子ども向け講演会を開催し、この地域の歴史をわかりやすく学ぶ場を用意し、その後の学習への手がかりを示し、図書館利用の促進を図ります。
（２）西東京市縁の人を講師に招き、大人向け講演会を開催します。
（３）図書館だより等で、情報提供を継続します。

29 年度実績

（１）子どものための地域を知る講演会を夏休み期間に実施　子ども 6 名・大人見学者 12 名の参加
演題：「田無村の半兵衛さんと村人たちの世界」　講師：行田健晃
田無市史編纂資料も読み解き、近世の研究者であり講師が子ども向けに企画
（２）西東京市在住の縁の文化人を講師に招き、3 回の講演会を実施　参加者計 97 名
①演題：「マザコン将軍徳川綱吉」　講師：吉田豊
②演題：「夏目漱石と文豪たちに学ぶ楽しい手紙と愉快な人生」　講師：中川越
③演題：「明治 150 年記念　東京を目ざした明治の若者たち」　講師：石井正己
（３）①リニューアルしたカラー版の「図書館だより」に講演会の報告と講師からのコメントを掲載しました。
②中央図書館内の展示ケースで縁の方関連の資料を展示しました。
・「山本亨介さん関連」～将棋人気にあわせて、加藤一二三氏などのサイン入り図書などを展示
・「中川越さん関連」～講演会後に手紙原本や著書などを展示
③「図書館だより」での『にんにん西東京』は第 16～19 回を更新
・カラー画像を掲載することが可能となり、表現に広がりができました。

自己評価・取組み改善点

（１）市内小中学生が参加し、学校では触れられる事が少ない江戸時代の田無村を楽しく学んでもらいました。 アンケートでは、「学校では教えてもらえない話」「江戸時代（徳川家）のことがわかった」「田無の歴史がわかった」などの感想がありました。 見学の大人はほぼ付添いではなくテーマに関心がある方々で、大人向けにも需要があることが判りました。 （２）在住講師による講演は充実・安定しており、アンケート回答者の満足度平均は、①80.8%（回答 18 人／参加 24 名）、②94.6%（回答 20 人／参加 27 名）、③88.7%（回答 24 人／参加 46 名）でした。 今回初めてお願いした②については、第二弾の要望も多くありました。	A

図書館協議会委員による二次評価

子ども向けの郷土史講座、西東京市「縁（ゆかり）」の人による講演会、いずれもたいへん好評を得ている西東京市図書館ならではの企画で、継続実施を望みます。また、それらの開催報告を掲載したカラー版の「図書館だより」もわかりやすくおおいに評価できます。	A

事業番号	Ⅱ－２－４－２（１）	計画内容	サービス計画－地域・行政資料	担当部門	地域・行政資料

中間報告以後の実施計画

・西東京市情報を求める市民要請に答えられるようにするため、適切な書架作りを行いコーナーの充実に努めます。

５年間の獲得目標

・中央図書館コーナーには周辺地域を含めて市民の暮らしに役立つ最新の行政資料と、郷土にゆかりのある方の著作や、歴史、民俗等西東京市を知るための郷土資料整備に努めます。
・地域館コーナーには最新の行政資料を整備しコーナーの刷新に努めます。
・コーナー、書庫、地域・行政資料室を併せて資料整備の拡充に努めます。

29 年度目標

（１）外部書庫での保管委託を導入します。
（２）地域・行政資料室の書架を利用者にとって使いやすい構成に改善します。

29 年度実績

（１）書庫蔵書を中心に地域・行政資料の精査・整理を進め、外部書庫に、電子化済新聞折込広告 45,266 枚、図書 8,416 冊を保管しました。
（２）地域・行政資料室において、蔵書の一部を書庫に移動することが実現し、利用者が閲覧しやすい書架構成とレイアウトに改善できました。

自己評価・取組み改善点

既存の田無市の地域・行政資料室に、合併後に保谷の資料を受入れ、西東京市以降の資料も別書架に受入れ続けていたため、「西東京市関連」・「旧田無市関連」・「旧保谷市関連」資料が各々別コーナーとなり、西東京市に関する１つのテーマについて探索する際に不便でしたが、「田無・保谷・西東京市の歴史・地理・文化財・民俗」と「西東京市発行資料」などに書架構成を組み替えたことで、案内も調査も効率が上がりました。 地区コードや分類が異なる「中島飛行機関連資料」のコーナーを作り、入口にまとめて配架したことで、調査に訪れる利用者からお褒めの言葉をいただくとともに、資料についての情報提供やアドバイスをいただくことができ、一歩ずつ充実させることにつながりました。	A

図書館協議会委員による二次評価

長年の書庫狭隘問題の解決の一方法として、「外部書庫での保管委託」が実現できたことを評価します。市民の共有財産である図書館蔵書資料については、保存すべきものもスペース不足で廃棄することのないよう望みます。	A

<table>
<tr><td>事業番号</td><td>Ⅱ－２－５－１
（２）</td><td>計画内容</td><td>サービス計画ーハンディキャップ</td><td>担当部門</td><td>ハンディキャップ</td></tr>
<tr><td colspan="6">中間報告以後の実施計画</td></tr>
<tr><td colspan="6">・宅配市民ボランティアを活用し、宅配サービスを市内全域に網羅するように整備します。</td></tr>
<tr><td colspan="6">５年間の獲得目標</td></tr>
<tr><td colspan="6">・宅配事業を推進するため、宅配希望者 80 名の登録を目標とします。</td></tr>
<tr><td colspan="6">29 年度目標</td></tr>
<tr><td colspan="6">（1）市民ボランティアを活用した宅配サービスを実施します。</td></tr>
<tr><td colspan="6">29 年度実績</td></tr>
<tr><td colspan="6">（1）市民ボランティア（市民協力員という）の募集説明会を開催
応募人数 12 人、面談及び書類選考にて７人選出
宅配利用者９人に試行開始、２ヶ月間で 22 回 113（冊・件）を実施</td></tr>
<tr><td colspan="6">自己評価・取組み改善点</td></tr>
<tr><td colspan="5">29 年度宅配利用は 20 名（定期・不定期含む）、年度末の時点で 18 名が継続利用しています。18 名の内、職員対応が必要な方が６名、協力員でエリアがカバーできないため職員が宅配している方が３名います。９名の利用者に協力員による宅配を試行し、利用者・協力員ともトラブルなく順調に行っています。
今後は協力員の募集を行い、人員の確保に努めた後、利用者へ PR を行い拡大していく予定です。</td><td>A</td></tr>
<tr><td colspan="6">図書館協議会委員による二次評価</td></tr>
<tr><td colspan="5">宅配ボランティアの募集により、宅配サービスが可能になったことを評価します。一方で、宅配利用者の要望に十分耳を傾け、より慎重な対応を望みたいと思います。</td><td>A</td></tr>
</table>

事業番号	Ⅱ-２-５-新	計画内容	サービス計画ーハンディキャップ	担当部門	ハンディキャップ

中間報告以後の実施計画

・多文化サービスの検討と事業整備を実施します。

５年間の獲得目標

・多文化サービスの事業開始を目指します。

29 年度目標

（1）英語・中国語・韓国語の図書館利用案内を改訂します。
（2）多言語でのおはなし会を中央図書館以外の館で実施します。

29 年度実績

（1）英語・中国語・韓国語の図書館利用案内改訂版を 500 部発行しました。
（2）多言語行事
・演題：「中国語・韓国語できく　いろんな　ことばでたのしむ　おはなし会」（児童サービスと共催）を実施しました。参加者：21 人（子ども７人・大人 14 人）　会場：谷戸図書館
・成人サービスとの共催行事「英語多読はじめのいっぽ～絵本から洋書へ～」を実施しました。
（詳細は成人サービスの項目参照）

自己評価・取組み改善点

『ねずみくんのチョッキ』を韓国語と日本語と同時に読み聞かせすることで、韓国語に親しみを感じてもらいました。また、ことば当てクイズでは絵と音で、中国語・韓国語を覚えてもらい、幼児から大人まで楽しく外国語に触れてもらいました。	A

図書館協議会委員による二次評価

図書館利用案内の英語・中国語・韓国語翻訳版の改訂、多言語でのおはなし会の開催等の取り組みを評価します。さらに需要のある言語についても対応することを望みます。また、多言語サービスが、外国人利用者のためだけに行われるのではなく、多文化共生の地域づくりにつながる多文化サービスになるよう図書館サービスの枠組みを考えていただきたい。	A